

# 小樽の基盤築いた 北前船の歴史紹介

## 研究者ら講演

【小樽】北前船きたまへぶねの歴史的  
価値と観光資源化について  
考えるシンポジウム「北前



船と小樽・後志ごしが4日、  
小樽市内の小樽経済センタ

北前船と小樽の関わりなどを  
考えたシンポジウム

で開かれた。研究者らが、  
北前船が地元の振興につな  
がった歴史を紹介した。

小樽商科大グローバル戦  
略推進センターの主催で、  
市民ら約200人が参加し  
た。北前船は江戸時代から  
明治時代にかけて関西と北  
海道を日本海で結んだ。

同大の高野宏康学術研究  
員が講演し、複数の港に寄  
港することで人や物、文化

をつないだと指摘した。さ  
らに、富山県に本店がある  
北陸銀行の支店が小樽市内  
にあることを例に「北前船  
によるさまざまなつながり  
が小樽の基盤を築いていっ  
た」と述べた。

元小樽市総合博物館長の  
土屋周三さんも講演し、北  
海道の玄関口として小樽港  
が使われていたと説明した  
上で「物資が集まり人口の  
急増などに結びついた」と  
話した。

(三坂郁夫)